神戸学院大学人文学部人文学科

地域社会領域 2 回生矢嶋ゼミ

漆山上地区フィールドワーク報告

2016 年 1 月 19 日実施

漆山上地区フィールドワーク 2016 年 1 月 19 日実施

チームサンダーバード
佐伯　浩平
高瀬　登
谷川　夏鈴
松井　輝

東細谷公園の周辺

この報告書は 2016 年 1 月 19 日に行ったフィールドワークと八木清豪氏から伺った話をまとめたものである。

この班は主に神戸学院大学有瀬キャンパス北東方向の東細谷公園とその周辺を対象としたものである。

かつて昭和 40 年代に日本はボウリングブームが巻き起こり、八木清豪氏によれば、今の 50 代以上の人たちはボウリングにはまっていたとのことである。現在は東細谷公園のそばにもかつてはボウリング場があった。しかし、ボウリングブームも衰退に入り、ボウリング場だった場所も 1982 年頃になくなり、現在はマンションになっている。

写真 1　かつてボウリング場だったところ
現在はマンション。
2016 年 1 月 19 日撮影

八木清豪氏によれば、写真 2 の花屋をやっている人はかつて農家だったとのことである。

写真 2 の花屋の前の道路があったところは昔は谷であり、田んぼもあった。八木清豪氏によれば、この谷を境に東細谷、西細谷と呼ばれていたとのことである。

写真 2　公園のそばにある花屋
2016 年 1 月 19 日撮影

八木清豪氏のお話

八木清豪氏は、神戸アグリマイスターと認定されている農家の方である。ストック栽培を 40 年以上しており、それで有名になったそうである。現在も花栽培をしている。訪ねたときは、ストック、スターチス、ユリをハウス栽培していた。冷蔵庫と電気を使うことで出荷時期をコントロールし、2 か月ほど早く出荷することが可能とのことである。農協の営業では花が弱いとのことで、スーパー等に直で交渉して出荷しているとのことである。第二神明道路ができたときに上水道も整備されたため、生産効率が飛躍的に向上したとのことである。25 歳の時に親から畑を譲り受けたが、それまでは大根・大麦・小麦を含めた複合農家であった。大根は漬物屋が買っていたそうである。複合農家は難しいとのことで、花栽培 1 本に絞ったそうである。

ここまで成功してできたのは、「水」と「人」が大きかったとのことである。

漆山上地区フィールドワーク

2016 年 1 月 19 日実施
体育座りの男の子班
景山 日南子
神農 拓真
山本 侑治
渡部 佑輔

・D 地点

現在は高層マンションが立ち並んで人々の住居が集中しているが、かつては山でありそこを切り開いて開発が始まった。林の斜面が切り開かれ、アパートなどに利用されている。また、かつてはゴルフ場が建設されていた。さらにこの土地では山砂利が多く、大昔は川だった可能性が推測される。ごつごつした石が多くあったので、畑を耕す時の苦労がうかがえる。この土地で農作業するのはとても工夫が必要だったが、大蔵谷から水道が通りそれを畑に持ってくることで格段に農業ができる環境が整った（写真 1）。

写真 1　漆山上地区の畑（2016 年 1 月 19 日撮影）

土地は傾斜が激しく下段の高層マンションも上段のアパートと同じくらいの高さになっている。ここからは下りになっており、明石南高校まで自転車で行く時に、行きは下りのため早く行くことができるが、帰りは上りのため時間が倍かかる。写真 2 はこの地区で最初にできたマンションで、時代を感じさせる。

写真 2　この地区で最初にできたマンション（2016 年 1 月 19 日撮影）

・八木清豪氏（74）のお話

今回調査した八木氏の住んでいる漆山上地区の特性としては、川が少なく土地も平面ではない。また、大昔は川の下流だったこともあり、地面を掘り返すと石や砂利がたくさん出てくるため畑作りには向いていない土地だそうだ。

しかし八木氏は、ある時大阪にいった際、「農業でご飯を食べていく」と決意し、1955 年から農業を始めた。当時は花と野菜を作っていたが主に野菜を中心に作っており、出来たものは伊川谷から市場出荷より直接取引されていた。

1966 年に上水道ができ、農業の効率が上がった。その後、3 月の彼岸に合わせ、花を中心に栽培するようになった。花は飛ぶように売れたため、花の栽培に力を入れるようになった。そして、花の栽培に工夫を施していき、36 歳の時に「アグリマイスター」の認定を受けた。その後、若い人たちと組合を組み農業の教えを説いたのだ。そして現在に至るまで農業を続けている。

写真 3　ビニールハウスについて説明する八木氏（2016 年 1 月 19 日撮影）

漆山上地区フィールドワーク
2016 年 1 月 19 日実施

班名　伊藤スターチス班
班員　伊藤光太郎　大峪真里　　鎌田慶　川村恭平

神戸学院大学バイク駐輪場について

バイク駐輪場の入り口から入って左側に水路が通っていた。坂を見てみると傾斜の高い下り坂になっていて左に曲がった先の道は傾斜が緩やかな坂となっている。

写真 1 を見てみると山砂利が多くみられ、植物は手前のほうではあまり生えていなく、奥のほうにたくさん生えていた。これは砂利が多いところでは植物が育ちにくく、砂利が少ないと思われる奥のほうでは育ちやすいといえるだろう。

駐輪場の中に入って行ってみると、入り口から駐輪場までにかけては坂道であるが、写真 2 の駐輪場の様子をみると平面になっていて、バイクが停めやすくなっている周りには緑の竹藪と葉の色が濃い大きな木が多く広がっていた。植物の状態を見ると古くから竹藪があり、現在まで成長してきているということがわかる。1967 年の地図と見比べてみると、この地点では、駐輪場の入り口から駐輪場にかけて、下りの川で駐輪場は昔田んぼがあったことがわかる。理由は八木さんの話によるとこの地点から水路が開拓したのが 1961 年（昭和 36 年）ごろで、1967 年の地図には田んぼの地図記号がしるされていた。下り坂があり、駐輪場は平地だったことで、水を坂から流し、平地に水をためることで水田があったといえる。

写真 1　駐輪場歩道の斜面の様子
撮影日 2016 年 1 月 19 日

写真 2　神戸学院駐輪場の様子
撮影日 2016 年 1 月 19 日

・八木さんのお話

今回、漆山上で花作りを営んでいる八木清豪さんにお話しをしていただいた。八木さんは現在 74 歳で、戦後 2、3 年後当時 25 歳から 40 年以上営んできた八木さんは、自分で作業をするより、自分の能力、知識を人に教えるほうが好きで、花の育て方を教えるために農協で青年部を設立した。この活動は各地で話が広まり、JA の役員の人まで視察にくるほど、規模が大きいものになっていった。花作りで大切なのが、水の確保、仲間、工夫である。

水の確保はまず、水がないと作物は育たないので、水はとても重要だということである。仲間とは同じ農業仲間とコミュニケーションをとることで、アドバイスや競争心を育み農作を楽しむことが大事だということだった。工夫は作物を育てるにあたり、いかに工夫するかでよいものにできるかが重要になってくる。八木さんの花の育て方はビニールハウスの中の温度が夏は 2、3 度にし、冬は温度を暖かめに設定する。今回ビニールハウスの中も観察させていただき、中は外に比べるととても暖かく感じた。雨や曇りの日には太陽が出ていない時、電気で光を浴びさせ、花の成長を促進させていた。以上の工夫をすることで出荷予定の日から約 2 ヶ月早く出荷できるようになっている。八木さんの花に対するこだわりがよくわかるお話であった。

写真 3　八木さん取材の様子

撮影日 2016 年 1 月 19 日

漆山上地区フィールドワーク

実施日 2016 年 1 月 19 日
ヤジマイスター班
班員：川上　司
田尻　仁
長谷　律樹
矢崎　瞳

B 地点で気づいた点

- B 地点周辺には畑があり蛇口が設置されている。このことから畑には上水道が通っていると考えられる。
- 畑に畝があるが畑の形が少し傾いているので水が通らないようになっている。

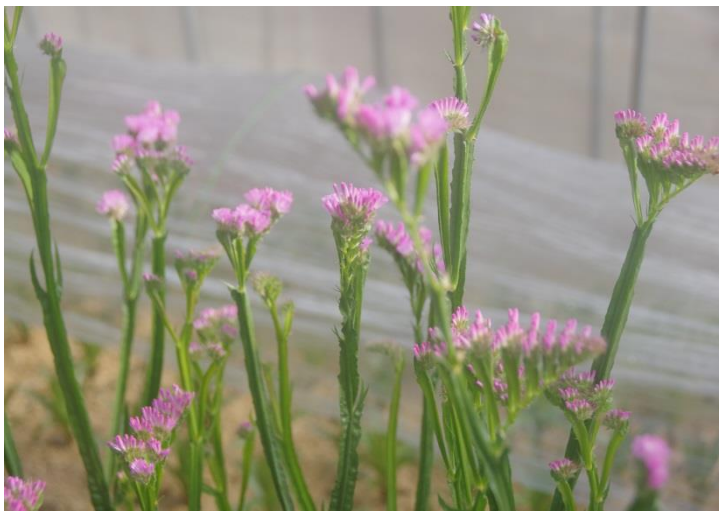
B 地点から見える畑 2016/1/19　撮影

B 地点畑に設置されている蛇口 2016/1/19　撮影

八木清豪氏の話を聞いて分かったこと

- 八木さんは神戸市が与えているアグリマイスターという資格を持っている。
- 30 年以上スターチスという花を伊川谷で栽培してきた。
- 25 歳で農業を引き継いだ。八木さんの家は元々野菜を栽培していた。野菜を栽培していた理由として昔この地域にはいくつか漬物屋があったためである。
- 引き継いだ当時は水が通っておらず、（通り始めたのは 1966 年のことである）ため池を使用していた。夏場はため池が干からびるので仕事ができなかった。
- 八木さんは野菜を栽培していた知識を生かし神戸で有名な花農家となっていった。

八木さんのビニールハウス前 2016/1/19　撮影



八木さんが栽培しているスターチス 2016/1/19　撮影